

最近、マアジが豊漁である。一九八〇年代あたりは、沢山いたマイワシは九〇年代に入ると忽然と姿を消し、マサバがその地位を取つて替わった。そしてここ数年はサバも少なくなり、アジばかりが多い。こうした現象を水産の世界では魚種交替と呼んでいる。なぜ魚たちがそのような交替劇を演じるのかは、魚についてみるとわからな

いが、そこどころを魚類心理学者の仕事である。そこで今年は、マアジを我が水産実験所で孵化

マアジ

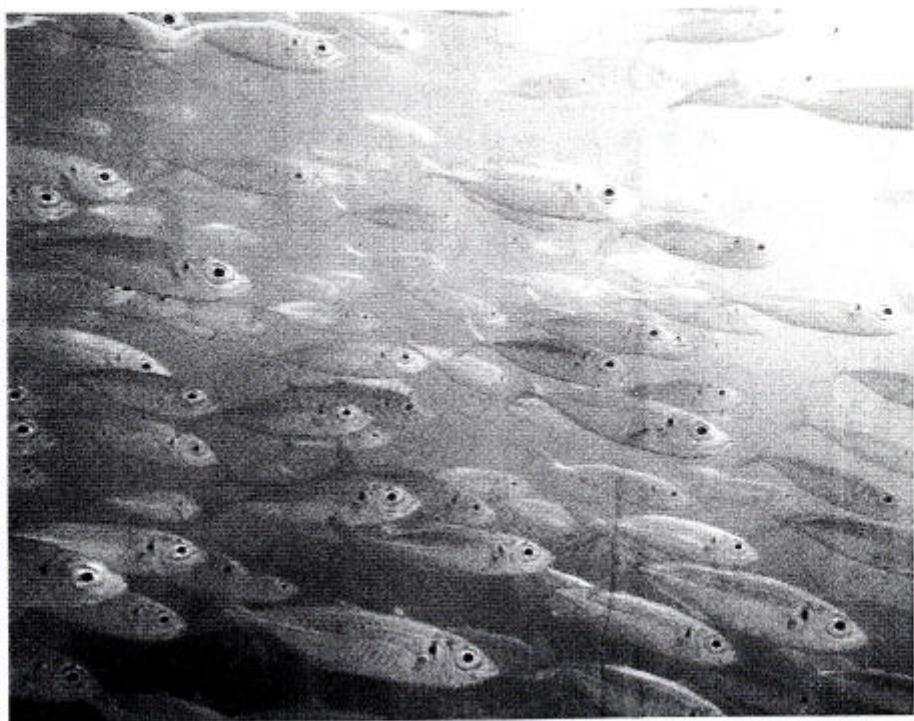
ここで筆者が注目して

から飼育し、いろんな行

京大水産 実験所 益田 玲爾

若狭湾水中散歩

4



マアジの群れ(撮影地は小橋・アンジャ島と呼ばれる半島の東側、水深4m)

たときの逃げ足がすこぶる速く、そしてクラゲによる魚が減つてアジとカワハギが増えたのではない。クラゲが増えたから、他

アジの稚魚は、夜、水面付近で眠る。魚が寝る、

というと変に思われるかも知れないが、寝ている

アジの子は手でくえ

くれるだろうか、などと

あらぬ想像をしてしまう

この頃である。